



荒天で「あいさつ運動」中止

6月になりました。日本では記録的な暑さとのニュースを聞きますが、クライストチャーチでは寒さが堪えるような季節になってきました。特に今日は大荒れの天気、雨と風が厳しく、校内では水たまりができるほどでした。そのため、予定していました「あいさつ運動」は中止になり、小学部・中学部の集会は翌週に延期になりました。

本年4月現在、世界に日本人補習校は240校あり、2万6千人の児童生徒が通っています。文部科学省は、補習校に下記のような定義を持って校長を派遣しています。

補習授業校は

- ・現地校に通学する児童生徒が、【対象】
- ・再び日本国内の学校に編入した際に、スムーズに適応できるよう、【目標】
- ・基幹教科の基礎的・基本的知識・技能および日本の学校文化を、【内容】
- ・日本語によって学習する【方法】

教育施設である。

学校というところは、集団で学習する場です。集団ですから、子ども一人ひとりには十人十色、百人百色です。もちろん、理解力の早い遅いは個々人の能力や頑張りによって差が出てきます。それを教師の指導により、子ども同士の同じ視点に立った「学び合い」で補いながら、全員を同じ船に乗せて、全員の学力向上につとめています。

当然ながら、その学校がある国・地域や環境により、大きく児童生徒の実態も変わってきます。240校、同じ学校は皆無です。そう考えると、上記の文部科学省の補習校に対する定義の中で、本校の児童生徒の実態に即した学校づくりが必要になります。少なくとも、日本と同じ教科書を使い、日本と同じ教育スタイルで授業を行うという大前提の中で、カンタベリー補習校の子どもたちのための学校運営をしていくことになります。

年次報告会でも申し上げましたが、土曜日4時間の授業で日本と同じ学力をつけることは、かなり難しいことです。その不足分は家庭教育（宿題）により補うことしか出来ません。日本の学校で行う授業の一環を家庭で行っているという意識を持って頂けると有り難いです。

補習校の先生方は、平日には自分の仕事を持っています。土曜日だけの先生です。仕事の合間を縫って、事務所に来て教材研究をしています。大変な努力です。日本では1週間かけてやる授業を凝縮して土曜日1日で行うこと自体、容易いことではありません。指導する方も必死です。「もう少し、ゆっくりと教えてあげて成就感を持たしてやりたいのに」という気持ちを持ちながら「何しろ、教科書を予定通り仕上げなければならないので」との使命感に燃えています。平日、現地校に通いながら一生懸命に頑張っている補習校に通ってくる子どもたちのためにも補習校の全教職員が一緒になって、よりよい学校づくりに励んでいます。保護者の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

訂正！ 「警備員配置」

先週、配布しました学校だよりの警備員配置についてのアンケート結果の円グラフが間違っていました。訂正して掲載します。2学期の7月27日始業式の日から一人配置される予定です。

詳細が決まり次第、お知らせ致します。

